

青年主日
メッセージ

弁護者のような教会を描いて

＜ヨハネによる福音書14:15～17＞

韓 宣 榮 牧師（大阪教会副牧師）



先日、普段教会で出会う青年たちの数人と交流する機会があり「なにか悩んでいますか」と聞いてみました。ある青年は、将来の進路を選んでいかないといけないのに必要な課題を十分にクリアしていけるビジョンが見えず苦しんでいました。またある青年は、職場の人間関係と空気感とに馴染めきれない「ズレ」を感じながら今後のキャリア選択に悩んでいました。将来への不安、社会の評価へのプレッシャー、自己肯定感の揺らぎなど、青年期に抱える不安は実際に多様で、悩みは根深いです。かく言う私もいち青年であり、自身に目を向けてみると、多かれ少なかれ同様であり精神的未熟さにおいて「自己弁護」「自己保身」に気力を削がれることも多いです。

現代社会の社会的繋がりにおいて、評価される他人の目に晒されながら比べられながら「自分は価値があるのか」「自分は認められるのか」「ここは私が輝いて生きられる居場所なのか」と悩むのです。神が与えてくださった自分の命をもっと輝かせて生きたいとどこかで願っているからこそ、大人も若者同様に悩み、心に渴きを覚えるのではないでしょうか。さらに一般的な精神論では、それを乗り越えるのは「より強くなった自分自身」なわけですから、「もっと強くななければ」とさらに自分を奮い立たせようとします。しかし、イエス・キリストが約束された福音は、自己の力のみに頼る「一人で強くなる」という現代の正義とは一線を画し、聖霊の助けによって与えられる神の力によって支えてくださるのだということを覚えたいのです。

ヨハネによる福音書14章に示される該当聖句は、イエス様が十字架の受難を前に、不安の中にいた弟子たちへ語った言葉です。世に取り残される弟子たち、ひいては私たちに手向けられた神の約束です。まず15節が前提になります。「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る」とあります。私たちがイエス様を愛する信仰を問い合わせ、この愛と信頼の関係において16節が続きます。

16節、「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。」

この「弁護者」、つまり原語での「パラクレートス」は、法廷で被告の傍に立ち、弁護し助ける存在とされています。さらに「別の弁護者」とあるのはつまり、イエス様ご自身が「最初の弁護者」だったことを暗示するわけです。主イエス様が

弱い人々の隣にいつも居られたように、「わたしと同じようにあなたがたの隣に立つ、もう一人の助け主を送ろう」と約束してくださったのです。

さらに主は17節「この方は、真理の靈である。世は、この靈を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない」とも言われました。あなたがたの力だけで強く生きていくのだ！という人間の正義に語られるようでもあります。そして主は「しかし、あなたがたは聖靈を知っている」と続けます。弟子たちは、主イエス様がいつも共にいてくださることを身を持って体験していました。だから約束を信じることができました。弟子たちが体験し信じた、まさにこのお方が、「弁護者」としてキリストを愛するわたしたちの内におられ、支え、力づけてくださるというのです。

信仰者はこの神の約束において、年齢に関わらずキリストを信じる信仰において本質的に変えられた存在として祝福されたのです。パウロはローマの信徒への手紙8章15節で「あなたがたは、人を奴隸として再び恐れに陥れる靈ではなく、神の子とする靈を受けたのです。この靈によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです」と語りました。現代社会に生きる私たちにとって「奴隸の靈」が、誰かの評価を恐れ、「ちゃんとしなければ見捨てられる」という不安の中で一人で頑張り続けなければならない縛られた生き方とするならば、神がイエス・キリストの十字架の罪の贖いによって与えてくださった聖靈は、私たちをその奴隸状態から解放されるのですから感謝であります。つまり神を「パパ、父ちゃん」と呼びかける関係において、自分のありのままが受け入れられ「そんなあなたが神の目にはあまりにも愛おしいんだ」と言ってくださる絶対的な愛の弁護者がともに居られるのです。

さまざまに悩める青年をはじめ、人々が心の底でそのような絶対的な愛と居場所を求めていっているとするなら、キリスト教会はどうあるべきでしょうか。キリストが裁きの座で弁護者であられるように、教会も彼らの弁護者のような存在となり、「隣に立つ助け」となる共同体でありたいと願います。

悩める者に「正しい答え」を教え、強くなれと励ます前に、まずは共にいる姿を模索し、それが分からぬことの弱さを安心して分かち合える場所であり続け、互いが評価し合うのではなく、互いの存在を喜び、支え合う教会の姿です。私たちの隣におられる弁護者なる御靈によって、「隣に立つ助け」として歩んでいきますようにお祈りいたします。

韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。
●B6版変型・1483ページ
●価格：2,500円（消費税・送料込み）
※お求めは総会事務所へ

韓日対照聖書販売



各ページの左に韓国語（改革改訳）、右に日本語（新共同訳）が掲載されています。
●A5版変型・1760ページ、革製
●価格：4,000円（消費税・送料込）
※お求めは総会事務所へ

京都教会牧師委任式挙行 李成俊牧師が赴任、勧士就任式も兼ね



2025年5月18日主日の午後、京都教会では新しく赴任された李成俊牧師の委任式が挙行された。

臨時堂会長の趙永哲牧師の司会によって始まった礼拝には、宋南鉉牧師が祈祷、総会長の梁栄友牧師から「主に用いられる器」(第二テモテ2:20~23)という説教がなされた。牧師委任式は関西地方会長の金鍾權牧師の司式で紹介、誓約、祈祷の後、宣布が出された。

引き続き行われた朱智子勧士就任式は新しく京都教会の堂会長になった李成俊牧師の司式のもので執り行われた。

勧勉には関西地方会から朴成均牧師、金武士牧師、祝辞は京都教会とは長年姉妹関係を結んでいる釜山平光教会の李瞳熙牧師、李成俊牧師が副牧師として仕えた名古屋教会の金明均牧師がされた。

この度、関西地方会から京都教会の牧会を委任された李成俊牧師は、1983年韓国で生まれ、国立韓京大学校を卒業、来日してから東京基督教大学、大学院を卒業し、2022年5月中部地方会定期総会において牧師按手を受けた。神学生の時は横浜教会に仕え、名古屋教会で伝道師と副牧師として仕えた。

家族は金主榮夫人と1男1女がいる。

在日大韓基督教会と日本基督教団との宣教協力委員会

2025年6月9日(月)、日本基督教団会議室において「第56回在日大韓基督教会と日本基督教団との宣教協力委員会」が開催された。

参加者は在日大韓基督教会(以下KCCJ)から8名、日本基督教団(以下UCCJ)から8名であった。委員会は前回記録(第55回)確認がされ、両教会の紹介と課題の報告の時間があった。

昼食休憩後、主題講演が「悔い改めと『いのち』の『ことば』を軸に」と題してKCCJの金迅野牧師からあり、「戦後80年を迎えるにあたって、終戦・敗戦・光復という言葉の差異についてしっかり理解するべきである。また日韓条約60年にあたり、かつて韓国側は日本政府から『補償』ではなく『経済援助』を受け入れたことなど、日本・韓国・在日をめぐって考えるべきことが多くある。今も続く、ヘイト・スピーチやヘイトクライム、敵意、その中にあって『深く憐れまれた』イエス・キリストの共感を持ちたいと願う。『日・韓』という国民国家のアイデンティティーを背負い、背負わされつつも、悔い改めの忘却という責任を引き受け、『いま、ここ』から、再び、新たに、ともに、歩んでいきたい」と述べた。

次に主題講演に対する応答がUCCJの久世そらち牧師からあり、「近代日本国家とは近隣諸民族・地域の支配・統合・同化であった。また大日本帝国として諸国、諸民族を支配、統合してきた。それは日本が世界におけるマイノリティからマジョリティを目指したものであった。近代日本におけるキリスト教会も日本においてマジョリティを目指し、キリスト者の指導者育成のためYMCAなどの学生伝道が盛んになった。しかし、アイヌの人々への宣教などには関心を持たなかった。キリスト教会は自分がマイノリティであることを見つめ続け、マイノリティとして立つべきである」と述べた。

2025年「平和メッセージ」について具体的な修正内容と追加内容について確認があった。



堺教会牧師委任式挙行 金大賢牧師が赴任、南港伝道所合併式も



2025年5月22日、主日午後、堺教会において金大賢担任牧師の委任式と堺教会と南港伝道所の合併式が執り行われた。

臨時堂会長の金鐘賢牧師の司会で開会された礼拝には、趙永哲牧師が「牧師委任の意味」(第一テモテ1:12)という題で説教された。

まず教会合併式が行われ、関西地方会書記の裴貞愛牧師による合併に至る経過報告の後、関西地方会長の金鍾權牧師から「両教会は関西地方会の承認に基づいて一つとなった」と宣言が出された。

引き続き行われた牧師委任式は関西地方会長の金鍾權牧師の司式で紹介、誓約、祈祷、宣布で行われた。

勧勉には宋南鉉牧師、金光成長老、祝辞は韓国から李京元牧師(基督教大韓監理会鞍峴教会)、重岡奈津子牧師(日本基督教团泉北樹教会)、吉井秀夫長老が行った。

この度、堺教会への牧会を委任された金大賢牧師は、1980年韓国で生まれ、江南大学校、監理教神学大学校大学院、関西学院大学などを卒業、2010年に基督教大韓監理会で牧師按手を受けてから宣教師として派遣され、2011年から南港伝道所で牧会した。

カナダ長老教会定期総会参観記

高 大 韓 牧師(カナダ留学中)

2025年6月1日から5日まで開催されたカナダ長老会(PCC)150回総会に参加しました。私の信仰の歩みにおいて、本当に意義深い経験として心に刻まれました。数日間の総会は、単なる会議を超えて、カナダ各地から来られた議員たちが一堂に会し、教会の未来を共に悩み、祈る恵み深い場でした。見知らぬ地で学業に専念しながら少し寂しいと感じていた私に今回の総会を通して温かい共同体の中で共にし、大きな慰めと希望へと変わりました。

様々な議題を巡って時には熱い議論が交わされました。最終的には神さまの御心を求める、互いを尊重しようとする成熟した姿が印象的でした。特に、次世代と包摂的な教会についての真剣な議論は、教団が進むべき方向を明確に示してくれました。

総会期間中恵み深い賛美と祈りは、乾いた魂を潤し、靈的な再充電を教えてくれました。全国から集まった方々との交わりで得た温かい励ましは、これから歩みに大きな力となると思います。

今回の総会を通して、私はカナダ長老教会が直面している課題と、希望に満ちた未来を同時に見ることができました。総会で得た気づきを胸に、私が所属するKCCJでさらに謙遜に仕え、主から与えられた使命を果たすという深い決意を新たにしました。今後もKCCJとPCCに、主の恵みと平安が豊に満ち溢れますように心からお祈りします。



韓日異端・カルト対策セミナー

韓日の関係者60名余りが参加して開催

2025年韓日異端・カルト対策セミナーが6月16～17日、KCCJ福岡教会にて開催された。今回の異端対策セミナーには、日本基督教団、在日大韓基督教会、日本バプテスト教連盟、日本基督教団カルト問題連絡会など日本関係者と韓国イエス長老教統合側異端カルト対策委員会と関係者60人余りが参加し、1泊2日間交流した。

セミナーでは裁判所で解散命令を受けた旧統一教協会に対する法律的手続きと展望について川井康雄弁護士より聞くことができた。宗教2世と呼ばれる異端に属する親の下で生まれた子どもたちの被害と救済及び支援活動をしている松田彩絵氏は子供たちが幼い頃から自分の意志とは関係なく、正しい価値観と自尊心を形成できない環境で育ったことを認識し、人間の尊厳性について深く悩み、対処しなければならないという事を強調した。

現代宗教理事長であり、釜山長神大学教授である卓志一牧師は、韓国と日本と台湾で活動している旧統一教協会と新天地、救援派、JMSなどの現在の活動状況を知らせ、特にこれらのカルト団体が政治とつながり、どのように勢力を得て拡張してきたかについての説明と、教主が死亡したり拘束された後に起こる勢力争いについての報告があった。

最後に、日本キリスト教団所属の豊田通信長牧師は「宗教法人の解散命令と信教の自由について」という発題を通して、異端カルト団体の害悪性とそこに属する信者の人権は別のものであることを強調した。殆どの人が異端に属する人々を法律を犯した者として扱うことは人権への深刻な弊害であることを気づかせてくれた。



注目すべき点は、異端カルト団体に属している人々に対して韓国側は教理的な接近をし、日本側は人権の立場から接近するということだ。教義と人権、両者のバランスをとることが必要ではないだろうか。
(報告:趙永哲)

西部女性会

復活節合同讃美礼拝開催

9教会各々がパフォーマンス披露

4月20日（主）にイースターフェスティバル第23回復活節合同讃美礼拝が西部地方教会女性連合会の主催で神戸教会堂にて開催された。2年に一度の開催で動画参加もあり、9教会102名が参加した。

第1部の開会礼拝では崔亭喆牧師（岡山教会）による「復活と新しい命」（ローマ6:4-7）のメッセージがあった。

第2部は各教会のパフォーマンス発表で、各教会による讃美や子どもたちの聖句暗唱、ダンスなどがあった。さまざまなパフォーマンスをとおしてイエス・キリストの復活を参加者一同でお祝いした。信徒部長尹鐘憲牧師（明石教会）の祝祷のあと、梁律子会長の挨拶があり、この日の献金を全国女性会「もりもりフードパントリー」の活動支援のために捧げることの報告があった。

実際に集まり、共に賛美できる恵みに感謝しつつ、パンとジュースのおみやげをもらって復活の喜びと共に家路に着いた。
(報告:崔美恵子)



移住民国際シンポジウム開催

移住者の嫌悪に対抗する教会の活動を提示

6月9～10日、「韓国基督教教会協議会（NCCK）教会と社会委員会」と「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会（外キ協）」は、ソウル第一教会で第21回「移住民」国際シンポジウムを開催した。「移住者の嫌悪に対抗する教会の活動・平和活動—東アジアの平和と移住民の人権」という主題のもと、韓国から24人、日本・在日教会から18人が参加。

日韓それぞれ宣教現場から4つの発題がなされたが、主題講演の朴涇泰・聖公会大学校教授「ヘイトと差別の中での移住者の人権の現状と課題」、特別講演の李清一牧師（外キ協共同代表）「韓・日・在日教会の連帯の歴史と未来への課題」は、これまでの歴史を踏まながら、現在の混沌とした状況のなかで、私たちがめざすべき共同課題を提示してくれた。

そして、最終日に次のことを確認した。

- 1) 私たちは、植民地主義と覇権主義の誤った歴史を直視して、東アジアと世界の和解と平和をめざします。とりわけ東アジアの平和における大きな桎梏は朝鮮半島の南北分断であり、私たちは南北朝鮮の完全なる解放と平和的統一をめざします。また私たちは、日本政府に対して明確な謝罪と戦後補償を実行するよう求めています。
- 2) 私たちは、閉鎖的で排他的な難民政策、ヘイトスピーチ・ヘイトクライムを放置している日韓両政府に対して、人種差別撤廃法の制定と、難民認定制度など外国人法制度の抜本的改善を求めていきます。



関東女性会

献身礼拝を開く

朴英遠名誉長老（品川教会）が証し

2025年6月8日（主日）、関東地方女性会による献身礼拝が東京希望キリスト教会で捧げられた。

具滋佑牧師（東京希望キリスト教会）による説教「思いやりの恵みを体験したハガル」（創世記21:8～21）の後、朴英遠名誉長老（品川教会）の証しがあった。信仰の先輩の証しを伺い、出席者一同大いに恵まれました。幼い頃から神様と密着した関係で社会生活も信仰生活をした朴長老が羨望を受けた。



献身礼拝のため東京希望キリスト教会の女性会による特別讃美があり、感慨深かった。
(報告:李惠淑)

<住所変更>

朱文洪牧師 住所変更

〒194-0201 東京都町田市上小山田町393-17

TEL: 090-2516-5169

KCCJ全教会・全教友へ送る書簡

総幹事 鄭 守 煥

2028年にKCCJは創立120周年の節目を迎える。この長い道程を主が支え導いてくださったことにKCCJ総会につながる全ての教友と共に感謝を捧げたい。そのために今日に至るKCCJの足跡を辿りつつ、私たちが直面している課題と今後の展望について共有したいと願う。

1906年に東京朝鮮基督教青年会（現、在日本韓国YMCA）で留学生を対象に聖書研究会がもたれ、主日には礼拝を捧げるようになった。1908年に鄭益魯長老、金貞植YMCA総務、そして10余名の学生たちが礼拝後に集まりYMCAとは別に教会を設立することで意見が一致した。それで本国のイエス教長老会に牧師派遣要請がなされ東京教会が設立されたことからKCCJ総会の宣教が始ることになった。1911年には東京で監理教会の信徒が増えるにつれ、別に教会を組織し礼拝を捧げる声が上がった。しかし留学生の役員会で礼拝を合同で捧げることを確認した。これを受け本国の長老教会と監理教会は東京の同胞教会において、超教派（エキュメニカル）な宣教活動を展開することで合意した。また1897年から朝鮮宣教を開始していたカナダ長老教会（PCC）は1927年に在日同胞への宣教を支援するためLL.Young宣教師を派遣することになった。その後も派遣されて来た宣教師たちはKCCJにおいて大きな役割を果たしてきた。LL.Young宣教師派遣から数え2027年にPCC在日宣教100周年を迎えることになる。神は本国から日本に来ていた同胞を通して教派の壁を乗り越え、またカナダの教会もこれに加わり一つの思いで宣教することの豊かさを示しKCCJ総会の礎を築かれたのである。これが現在のKCCJ総会の宣教の原点である。

東京教会創立のきっかけとなった東京朝鮮基督教青年会会館では、1919年日本の植民地支配に抗い「2.8独立宣言式」が挙行され、本国の「3・1独立運動」へとつながっていった。1923年、関東大震災が発生し多くの同胞や中国人が流言飛語によって命を奪われたが、災害時におけるKCCJの動きを残した記録は現在まで見だせていない。しかし震災発生の9月1日に近い9月第一主日を「人権主日」（2025年は9月7日）として定め、関東大震災における同胞の災難を覚えてメッセージが語られることは命を奪われた同胞への鎮魂となるだろう。

1939年に宗教団体法が公布され各宗教団体が国家の統制下に置かれていくなかでKCCJは日本基督教会へ加入する。警察当局によって京都教会の礼拝堂が使用不許可（1935年）となったり、京都教会・京都南部教会の教役者・長老、信徒が治安維持法（1925年公布）違反で検挙（1941.7.26）され解散を余儀なくされたり、太平洋戦争開戦による「非常措置」で愛知、兵庫、大阪の牧師・信徒が逮捕（1941.12.9）されたり、母国語で御言葉を語り、祈ることさえもままならなかった。KCCJの宣教は本国の教会と同様に苦難の連続であった。それでも異国にいる同胞の信仰と生活の拠り所として教会は無くてはならない存在であった。1941年には日本のプロテスタント教会諸教派は日本基督教団に合同されることになる。そして1945年8月15日の日本の敗戦に伴い植民地支配から解放され、日本基督教団から脱会し在日本朝鮮基督教連合会を創立し、今年は80年を迎えることになった。

解放後は帰国する教友たちもいる中で今日まで信仰を共にしてきた。日本社会にある民族的な差別と偏見の中で指紋押捺を拒否し同胞と痛みと苦しみを共にし、韓・朝鮮半島の平和統一のために同胞と日本の架け橋として役割を果たしてきた。今では在日コリアンだけでなく、ブラジル、ベトナム、ネパール、台湾の人々もKCCJの一部の教会で、さまざまな試みをしながら信仰を共にしようとしている。

幾多の困難を乗り越えてきたKCCJではあるが新たな問題に直面している。それは働き人の不足である。この先10年以内に30数名の教役者が引退を迎える。長老職においては40名を超える長老が引退となる。

だが教役者が不足することで宣教師によって補ってもらい礼拝を維持することに重点を置く考え方では克服できない現実がある。それは少子・高齢化社会の影響による在日コリアンの減少と財政的な地域格差という課題である。そのために本国教団から日本の神学校・神学部へ神学生を受け入れるための一歩を踏み出しが、決して簡単なことではない。日本に来る神学生の費用や言語習得の課題、社会背景を理解してもらうことである。そして何よりもKCCJの宣教におけるエキュメニカルで多様な宣教活動に使命を持つ献身者の存在が不可欠である。これまで以上に、より深く、幅広く、時間と労力を惜しまないKCCJの宣教を展開していくことが求められている。その過渡期として全ての教役者の引退年齢を引き上げるのではなく、少子・高齢化と在日コリアン減少の課題を抱え、財政的に教役者招聘に困難を覚える教会において、満70歳を超えて満75歳まで祝務延長が可能となるKCCJ憲法の改正を検討している。KCCJの抱える課題と宣教の働きを全教友に覚えてもらい、理解と協力を切に願う。

今日に至るまでKCCJにつながる全教会において、涙と汗を流しながら種を蒔いてきた教役者と教友の働きを主が豊かにかえりみ労い祝福してくださるように祈る。

宣教委員会オンラインセミナー、 KCCJ宣教120周年を迎えて

- その課題と未来像 -



* 発題：総幹事 鄭守煥牧師

* 応答：金聖泰牧師、李明信牧師

○日時：2025年7月28日（月）19:30～21:30

○ZOOMによるオンライン（言語：日本語）

○教役者と信徒

●お問合せ：委員長 趙永哲牧師（080-5318-9058）

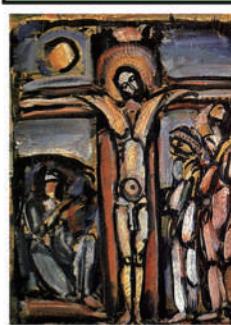
*ZOOMサイトの案内と発題原稿（日本語と韓国語）は7月26日（土）頃、各教会の教役者にE-Mailで送りますので長老や信徒の方に転送してください。

在日大韓基督教会 宣教委員会

●KCCJ 2025年 教役者修養会（zoomによる）●

～教会における女性の役割とは？～

2025.8.4（月）午後1時～4時（参加費無料）



また、女たちも遠くから見守っていた。その中には、マグダラのマリア、小ヤコブとヨセの母マリア、そしてサロメがいた。この女たちは、イエスがガリラヤにおられたとき、その後に従い、仕えていた人々である。このほかにも、イエスと共にエルサレムへ上って来た女たちが大勢いた。（マルコ15：40-41）

イエスとともに歩いた女性たちの姿を想い
教会の明日の姿を想い描こう

今回の教役者の修養会においては、教会における女性の役割について、世界の状況から学び、日本や韓国の教会の今後の歩みを展望する機会にしたいと思います。教会にかかわるすべての人が、自分のこととして考え、自由に話し合える場にしたいと思います。ぜひご参加ください。

zoomID
https://us02web.zoom.us/j/854484810
ミーティングID: 634 448 4810
パスコード: 832804

主催：在日大韓基督教会教育委員会
後援：全国教会女性連合会